



森と水の源流館 だより

July, 2010 vol.91

電話) 52-0888 fax) 52-0388 (水曜休館)

残しておきたい川上村の山言葉 其の七「あつい」

意味:密生している山林の状態のこと。対義語は「うすい」。

※川上村の方言の意味や使い方などについてのご意見をお待ちしております。

企画展～川上村の岩石～

期間7/17(土)～8/31(金) 9:00～17:00

吉野川の河原に下りると、白い石や黒い石、緑の石や赤っぽい石など実にさまざまな石を見つけることができます。

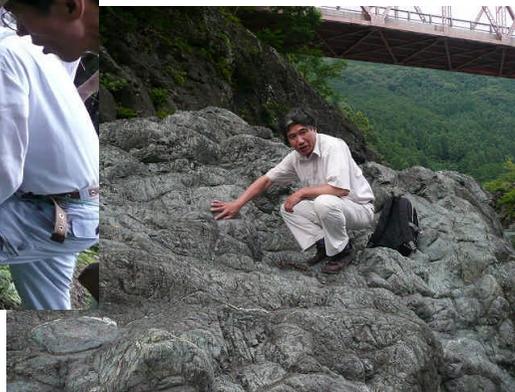
それらの正体は、サンゴ化石や海底火山から噴出した溶岩、深海に堆積した石や火山灰が固まって出来た石、鉱石などです。

それらを調べることによって、紀伊半島がどのように出来てきたのか知ることができます。

今回の展示では、それらの石から見える紀伊半島の成り立ちと共に、それらを人々がどのように利用してきたのかを紹介します。



(左) 白屋の白土採掘場跡



(右) 東川の枕状溶岩

主な展示物

★サンゴ化石(入之波)・・・奈良県最古の化石です。

★白土(白屋・大迫)・・・国産の紙漉き用に採掘されていました。

★凝灰岩(中奥～神之谷)・・・自天王陵もこの石でできています。

8/1(日) みんなでつくろう“まが玉”!

和歌山県立紀伊風土記の丘資料館の学芸員さんたちに、まが玉のお話を聞いたり、実際にまが玉を作ったりします。

●時間: 13:30～16:00

●定員: 50名 小学生～

●参加費: 300円(別途入館料が必要です)

8/25(水) シンポジウム“水源地の村”からの提言

「朱雀(南)に学ぶ自然との共生」

基調講演: 菅谷文則さん(奈良県立橿原考古学研究所所長)

事例報告: 源流には、宝がいっぱい!

●時間: 13:30～16:30

●参加費無料(要申し込み)

※お申し込み・お問い合わせは、森と水の源流館まで

※小学生以下の参加は保護者の参加も必要

☆ボランティアでお手伝いいただける方も募集しています。

まだ間に合うイベント案内▶

6/19 源流のほたるの夕べ

今年も東川の中井溪谷で源流のほたるの夕べを開催しました。当日はあいにくの天気になってしまいましたが、東川のみなさんのあたたかいおもてなしに、参加者のみなさんも大満足でした。心配していたホテルもちらほらと観察できて楽しい夕べを過ごせました。

ご協力いただいた東川地区のみなさま、ありがとうございました。



↑ 烏川神社の大杉など松本修さんに名所を案内して頂きました。



↑ 中井溪谷自然塾でアマゴつかみ！



↑ アマゴの焼け具合が気になります。



↑ 千本づきはやっぱり一番盛りあがりました。



7/3 水源地の森ツアー・・・

残念ながら、天候状況が悪く村内各所を巡るエコツアーに変更して開催しました。その分、たくさんの川上村の魅力をいっぱい感じた1日になりました。



↑ 匠の聚で陶芸体験をしましたり・・・



↑ もくもく館で吉野林業のお話をきいたり・・・



7/4 東熊野街道ウォーク

恒例の“東熊野街道ウォーク”を開催しました。ここ数日雨が続けていましたが、当日は晴れ間が見えるほど天候に恵まれました。

所々で辻谷館長から、大峯山へお客さんを迎えに行く途中で熊に出会った話や、子供のころカジカガエルをお土産に売っていた話など、柏木がにぎわっていた頃のお話が聞けて大阪や和歌山から参加者のみなさんは満足された様子でした。



↑ 茶屋峠の道しるべ前で記念撮影